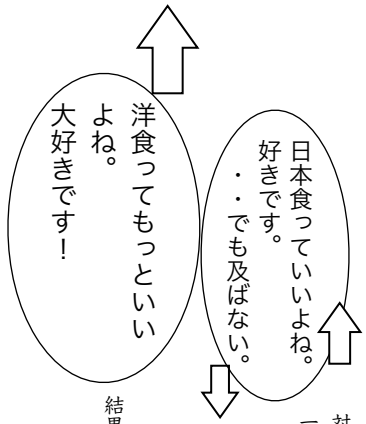
高校現代文を解く前に〜筆者の主張を見つける　００２　わざと比較材料をだす（譲歩）

前のページでは筆者の主張は一段階抽象的であるということを学びました。
今回は二つの事柄を比較しながら筆者が主張を展開するパターンを学びましょう。

例文２

もちろん私も日本食が好きだ。
天ぷら蕎麦がおいしいお店の海老天とゴボウ天の揚げ具合はすばらしいし、お寿司屋さんのイクラの軍艦巻きや中トロの握りのおいしさは、普段の食事とは違った満足感を与えてくれる。
だが、私にとってはそれらは行きつけの洋食屋さんのハンバーグには一歩及ばない。
あの洋食屋さんのデミグラスハンバーグが鉄板でアツアツで運ばれてきた時の香りと、一口食べた時のなんとも言えないおいしさは本当に格別である。
したがって私は洋食屋さんが好きなのだ。

この例文２で、筆者の主張はどこにあるのでしょうか。
筆者は日本食も好きで、洋食も好きなのですね。では、いったいどちらの方がより好きなのでしょうか。
日本食が好き（具体例は、蕎麦屋の海老天や、寿司屋のイクラ軍艦など）
洋食が好き（具体例は、ハンバーグ）
となっていますのが、よく読むと、
それらは行きつけの洋食屋さんのハンバーグには一歩及ばない。
と書かれています。この場合の指示語　それら　は、蕎麦屋の天ぷらや寿司屋の寿司、つまり日本食のことですね。
そうなると・・・
ちょっと図にしてみましょう。



日本食が好きだが、洋食の方がより好き。
というのが主張ことになります。
筆者は自らの主張である　洋食が好き　を言うことために、わざと比較する材料として日本食を出してきたのです。
このように、比較する内容をわざだしておいて、のちに主張したい方を際立たせる手法はよく目にします。
また、この手法は副詞の呼応という文法上からも判断できる場合があります。
今回の場合、もちろん　がありますので、一旦持ち上げて褒めておいて、のちに逆接の接続語で下げたり否定に転じることが予測できます。

もちろん日本食は好きだ。だが、洋食には及ばない。
という展開になることが容易に想像できるのです。
この副詞の呼応については、「高校現代文を解く前の知識００３・副詞の呼応」のページでも触れていますので、そちらもあわせてご覧ください。
（次のページでまとめと例題です）

まとめ

筆者は、わざと比較内容を出して褒め上げて、あとで下げる。
結果として、筆者が本当に言いたい主張を上げる。

この構成は評論ではとても多いパターンです。何と何を比較していて、筆者の主張はどちらなのかに気をつけて文章をよく読みましょう。

例題をやって確認してみましょう。

例題B　次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

指さばきの良さが必要であるし、軽快さがあり、その中に明るさだけでなく時には深刻さも合わせもった音楽。それがモーツァルトなのだ。たしかにこのような世界観は彼独自のものだろう。

しかし、残念ながらどのソナタも少しずつ似ている。いや、似ているどころか音楽に詳しくない人からしたら同じに聴こえてしまうのも無理はない。

そういう意味では、ベートーヴェンは作品の質に出来不出来があるとしても、個々の作品に個性がある。「悲愴」と「月光」は全く異なる曲である。

だから私は、一つ一つの作品に強力な個性を持たせている彼の方を、古典時代のナンバーワンとしたい。

たとえ小品や初期のソナタに質の良く無い作品があるとしても。

（縞井　一樹「いびつな真珠を上手く弾く」より）

問　この文章で筆者の主張は何か。次の選択肢から選びなさい。

1　モーツァルトは個々の作品に個性を持たせており、それがベートーヴェンに影響を与えた。
2　モーツァルトは天才であり、質の良くない作品もつくったベートーヴェンを上回っている。
3　ベートーヴェンはそれぞれの曲に特徴があり、古典時代トップの作曲家である。
4　ベートーヴェンの「悲愴」や「月光」は個性はあるが、作品の質があまり良く無い。
5　ベートーヴェンは質の良く無い小品などがあるが、「悲愴」や「月光」などは名曲である。

ポイント解説と解答

筆者が比較しているのは、モーツァルトの作品とベートーヴェンの作品ですね。

モーツァルトの作品
一旦上げ主張　：　独自の世界観　と一旦褒めている。
←
結局は下げ主張　：　どのソナタも似ている。　と結局少し下げている。

ベートーヴェンの作品
下げ気味の主張　：　小品や初期ソナタに質の良く無い作品もある。　と言ってはいるが、
←
結論は上げ主張　：　一つ一つの作品に強力な個性がある。と褒めている

ですから結論としては、ベートーヴェンの作品はそれぞれ個性があり、古典時代の第一人者ということになります。

ということは、もうおわかりかと思いますが、モーツァルトの作品あくまでは比較材料に過ぎず、筆者はベートーヴェンの凄さが言いたいわけです。

よって答えば、3　です。

1は本文に反しています。2はモーツァルトは天才などという一般論を書いていますし、結論も本文に反しています。4は本文に書かれていない内容です。5は本文から大きく逸脱はしていませんが、筆者の主張ではありません。

特に結論が真逆のはずの2や、本文からはそれほど外れていない5に引っかからないようにしましょう。